

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム 天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野 8 5 2-1 (電話) 0581-58-8600		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 12 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	10.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	54,000~66,000 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 12 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護 1	3 名	要介護 2	2 名
要介護 3	5 名	要介護 4	3 名
要介護 5	5 名	要支援 2	名
年齢 平均	82 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洞戸診療所・岐北厚生病院・船戸外科内科クリニック・えんどう歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは無垢材を多く使った木造で、吹き抜けの天井からは明るい光が射し、利用者は居室や床暖房が設置された広いリビングでゆったりと過ごしている。母体の医療法人理事長は緩和ケアの専門医であり、開所3年目のホームであるが、既に何人かの看取りをしている。自分の持てる力を発揮して身の回りのことは自分でできるよう、廊下には程よい高さに手すりが設けられ、車椅子の利用者も自分で口腔ケアができるようにと設計されている。利用者のたつての願いを叶える「夢プロジェクト」では、利用者が希望していた山中にある困難な墓参りを実現するなど様々な試みをしている。看取りの際には、「ありがとうと言える最期」を目指し、施設長・管理者・職員は日々努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回評価の改善課題だった「介護計画の見直し」については管理者の事務の時間を工夫し、「個別の記録」については職員間で拾い上げた事柄を書き込む取り組みがされ、「服薬支援」はダブルチェック方式に変更し、薬に対する職員の意識付けと見直しが図れるよう、それぞれ改善が見られる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>評価項目を読み込んで日頃のケアに活かし、評価を通してよりよいホームへの真摯な思いが感じられた。さらなる向上を期待したい。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、自治会長・老人会長・行政に加え家族の参加もあり、ホームの現状報告や地域の応援体制を討議している。出された意見を参考にし、次回の会議内容につなげるよう努力している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や遠方で訪問できない家族には電話やメールで、利用者の心身の状態を伝えたり、生活の報告をしている。契約書には常設の苦情窓口も明記され、介護計画の同意書に家族からの意見を書き込める欄も作成している。少しでも家族の意見や希望を聞き取り、要望を叶えていきたいという向上心が感じられる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>自治会に加入し、ホーム便りは行政・地域・病院等にも配付されている。地域の太鼓ボランティアや郡上踊りのおはやしの来所の際は、地域住民も参加し交流が図られた。地元の保育園児もホームを訪れ、次代を背負う子供達に福祉の心が芽生えるきっかけ作りにも一役かっている。小学校・中学校の福祉学習もこのホームで行うよう、計画を着々と進めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民と交流し、その中で利用者が自然にその人らしくいられるようにとの理念に基づき、仲間と共に日々生活をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「私らしく今を生きる」という理念は、職員の採用時に必ず伝え、施設長・管理者・職員は理念に沿ったケアの実践をすることで共有を図り、利用者のことを第一に考え、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、毎月作成するホーム便りは地域にも配布している。地域の行事や敬老会に参加をしたり、地元の太鼓ボランティアがホームを訪れ演奏をするなど、地域へも呼びかけ、交流を深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題については、職員会議で報告し、解決に向けた取り組みと見直しが行われている。外部評価を通して質の向上につながるようにと、熱意が感じられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行われる運営推進会議は、行政・自治会長・老人会長とともに家族の参加もあり、出された意見や項目は、職員全員が参加する会議で報告され、一丸となって取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公共施設に毎月のホーム便りを持っていきながら足を運び、行政担当者などに、ホームの実情を報告したり、情報交換をして連携を図る努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の医療的な状況は家族の訪問時に伝えたり、ホーム便り・電話やメールで報告しているが、利用者の個々の様子が伝えられていないことから、ホームと家族間で誤解が生じているところがある。	○	全体的な便りのみならず、家族との関係をよりよくするためにも、利用者ごとの便りの作成など、その人その人のきめ細かい報告や日々のケアの様子を家族に提示する取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月毎に送られるサービス計画書と共に同意書と評価が送られ、その中に家族からの意見を書き込める欄も作成している。それらの意見や要望についての対応や記録もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が不安にならないよう、2ユニット間では同じフロアで交流し合い、利用者と職員は常に顔なじみになっている。また、新職員の紹介は利用者に行うなどの配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員配置や勤務シフトを考慮しながら、必要な研修や希望の研修には順番で参加できるよう配慮をしている。また、看護師によるホーム内研修も計画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入しているが、同業者同士の交流には至っていない。	○	地域性もあり難しいと思われるが、相互見学や研修を通し連携を結ぶことで、質の向上にもつながるので、行政にも相談を持ちかけるなど、今後のホームからの働きかけを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者は家族と見学に訪れたり、丁寧な事前面接による十分な情報を職員間で共有することで、入居前の生活と大きく変わらないような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	フロアの掃除やおしぼり作り、アイロンがけ等は、利用者が気の向いた時にできるよう、職員は見守りながら支援しており、利用者職員は日々の暮らしの中から、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から職員が拾い上げた利用者の特性や新たな気づきは記録されている。やや重度の利用者が多い中、その人が好きなこと・得意なことを職員が共有し、その人らしい暮らしの継続ができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度、全職員による会議を行い、家族の希望を取り入れ、職員の意見も取り入れた介護計画が作成されている。また、家族の確認と同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直しを行い、見直し期間を守りながらも利用者の状態の変化時や必要時等は家族に説明を行い、家族の意見や要望も取り入れながら計画を修正している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望のかかりつけ医への同行は基本的には家族で行うが、職員が受診に同行したり、家族が希望した場合の宿泊は食費のみの負担で提供するなど、利用者や家族の望みに柔軟に応じられるような支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、入居時に、家族と本人の希望を聞いている。母体医療法人の医師による毎週の往診もあり、利用者の様子を細かく医療機関に知らせたり、手帳に記載するなど情報のやり取りをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体医療法人の理事長は、緩和ケアのエキスパートであり、管理者が看護師であることから看取りを前提としたケアを行っている。医療との連携もできており、密な情報交換を行い、ホームで家族と共に看取りを行った実績がある。また、重度化や終末期・重度化の指針・方針も確立している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての尊厳とプライバシー保護に関しては、全職員が認識をしており、排泄ケア等もさりげなく支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々のケアの中で利用者への理解を深めており、その人その人の生き方を把握している。起床時間や朝食は、利用者の自由で、眠れない人には、リビングで夜勤の職員と共に時間を過ごしてもらおうなど、各人のペースでその日の生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態が重度になりつつあり、食事の準備が可能な方は限定されているが、車椅子の利用者でも準備ができるように配慮をしている。職員は利用者とは談笑しながら、食事介助や見守りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には隔日に行うが、利用者の希望によって対応している。アロマの香りや入浴剤でリラックス効果を高め、入浴が日々の楽しみになるよう配慮している。夏場は、シャワー浴や清拭する等、職員のシフトも考慮し、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の誕生日には、その人の食べたい献立にしたり、食事ができない人に対しては色紙やお花をプレゼントするなど、家族と離れてホームで暮らす利用者が、仲間と共に生活する日々を楽しめるよう、さりげなく支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に合わせて外のベンチでお茶を楽しんだり、少しでも外気に触れる努力をしているが、人員配置の問題もあり、外出希望の全てには対応できていないのが現状である。	○	車椅子の利用者が増えている現実ではあるが、戸外の刺激や四季の移ろいを感じられるような対応を願いたい。また、計画中である少人数による「モーニングツアー」の早期の実行に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は出て行く利用者がいた為、施錠を行っていたが、やはり、施錠は拘束という認識を持った上で見直し、日中は鍵をしていない。職員の目が行き届いたケアの元で、利用者は、ゆったりと暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、食料や飲料水などの備蓄品は2ヶ所に置かれ、訓練も年に2回行われている。今後は、消防署による災害訓練に地域を巻き込んで行く計画がある。看護師の管理者によるホーム内での応急研修も行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のチェックは、法人の管理栄養士が行っている。また、施設長の考えにより、有機栽培の野菜・添加物の少ない食材を使用するなどの配慮をしている。食事摂取量・水分量も記載し、口腔ケアも毎食後に行い、利用者の体調管理に役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木がふんだんに使われた広いリビングには、二胡の音楽が流れ、ゆったりとソファでくつろいだり、テーブルで作り物をするなど、利用者はホームでの穏やかな日々を過ごしている。また、リビングは台所と直結しており、食事準備のおいしそうな匂いが、家庭を思わせる雰囲気をかもしだしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやロッカーは各自のものであるが、ベッドはホームが無償で提供している。居室の壁には手芸品が飾られたり、仏壇を持ち込むなど、おのおののスタイルで個性ある居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。